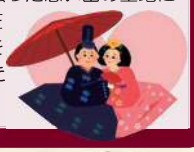
南区に伝わる伝説のラブストーリー
～玉照姫伝説～

もと美濃国の豪族の娘「玉照姫」は、あまりの美しさゆえ不運な運命に巻き込まれ、鳴海の長者の召使いとなってしまいました。不遇な生活を送りながらも、玉照姫は決して希望を捨てません。いつも呼続の里の街道脇にあった観音像にお祈りしていました。

ある雨の日、ずぶぬれになっていた観音像に自分の笠をかぶせてあげた玉照姫は、たまたま通りかかった藤原兼平に出会いました。

兼平は心優しい玉照姫を見初めてプロポーズ。めでたく二人は結婚し、京で幸せになったのでした。その後、二人の出会った思い出の土地には、立派なお寺（現在の笠寺観音）が建てられ、笠をかぶった観音像が祀られたというわけです。



戸部蛙ってなぁに？

富部神社や旧東海道沿いの道中で見かける戸部蛙。目の前を横切る人を無差別に斬り捨てた戸部城主でも、跳ぶ蛙は斬ることができなかったというエピソードから誕生したと伝えられています。「無事に帰る」とのいわれもあり、旅の無事を祈る縁起物も兼ねた郷土玩具です。現在は富部神社の社務所でお守りとして手に入れることができます。

市内唯一の一里塚

江戸時代、徳川幕府は東海道をはじめ主要街道に一里塚を築きました。36 町を一里（約4km）とし、一里ごとに土を盛って、その上にエノキやマツを植えました。

一里塚は旅人の目印となり、荷物を運ぶときの運賃の目安として使われていたようです。一里塚の上にエノキが多く植えられたのは、徳川家康が「よい木を植えよ」と言ったのを「エノキを植えよ」と聞き間違えたからだという説もあります。

名古屋市内にはもと 12 カ所の一里塚があったといわれていますが、現存するのはここ、笠寺一里塚だけです。この地に力強く根を張ったエノキが、今も当時の面影を残しながら、道行く人を見守っています。

見に行きましょう！
きんさん桜・ぎんさん桜

岐阜県本巣市には、樹齢 1500 年といわれる淡墨桜の巨木があります。きんさん桜・ぎんさん桜は、この巨木から若木を寄贈いただき、植樹されたものです。

植樹のきっかけは、全国的に親しまれた双子の長寿姉妹「きんさん・ぎんさん」と長寿の淡墨桜のご縁によるものです。お二人は生前南区にお住まいで、全国各地を訪問し、この長寿桜の若木の植樹を通して、長寿のよろこびと健康の大切さを示されました。

平成 12 年に南区役所新庁舎完成を記念して植樹されましたが、その後の成長環境を考慮し平成 25 年に笠寺公園へ移植しました。この桜には「健康と長寿」の願いが込められています。